

主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	2017年度 売上高(実績) (億円)	対前期 増減率	2018年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率
オプジーボ点滴静注	901	△ 13.3%	900	△ 0.1%
グラクティブ錠	274	△ 6.7%	260	△ 5.1%
オレンシア皮下注	141	+ 22.0%	165	+ 16.8%
フォシーガ錠	111	+ 41.8%	130	+ 17.4%
オパルモン錠	144	△ 15.6%	105	△ 26.9%
イメンド／プロイメンド	99	+ 0.7%	105	+ 5.5%
リカルボン錠	109	△ 3.3%	95	△ 13.0%
リバスタッチパッチ	89	+ 0.3%	90	+ 1.3%
カイプロリス点滴静注用	55	+ 182.4%	65	+ 17.4%
パーサビブ静注透析用	34	+ 1660.3%	55	+ 60.4%
オノンカプセル	55	△ 19.5%	45	△ 17.6%
オノアクト点滴静注用	56	△ 1.8%	40	△ 28.8%
ステープラ錠	41	△ 13.4%	35	△ 15.3%
オノンドライシロップ	33	△ 18.8%	25	△ 25.0%

「オプジーボ®点滴静注」、「ヤーボイ®点滴静注液」との併用療法で初めての承認取得

抗PD-1抗体「オプジーボ®点滴静注」は本年5月、抗CTLA-4抗体「ヤーボイ®点滴静注液*」との併用療法において、悪性黒色腫に対する承認を取得しました。この承認は、がん免疫療法薬2剤の併用療法における国内で初めての承認です。悪性黒色腫に対してはこれまで、「オプジーボ®点滴静注」および「ヤーボイ®点滴静注液」それぞれが単剤投与で承認されていました。今回の併用療法の承認により、化学療法による治療歴のない悪性黒色腫患者さんにとっての治療選択肢が広がりました。「オプジーボ®点滴静注」と「ヤーボイ®点滴静注液」の併用療法は、現在、化学療法による治療歴のない腎細胞がんについても承認申請中です。

*「ヤーボイ®点滴静注液」(一般名:イピリムマブ)

T細胞の活性化を抑制する調節因子(CTLA-4)と結合する遺伝子組み換えヒトモノクローナル抗体です。CTLA-4を阻害することで、腫瘍浸潤エフェクターT細胞などの、T細胞の活性化と増殖を促進します。